fireball
INTERNATIONAL

2025–2026 年次報告書



Active Fireball Locations Worldwide

目次

コモドアからのメッセージ

各国クラス協会（NCA）レポート

- ベルギー
- アイルランド
- スイス
- 日本
- オーストラリア
- カナダ
- チェコ共和国
- フランス
- イタリア
- ケニア
- スロベニア
- イギリス
- アメリカ合衆国
- アメリカ南西部地域：復活の物語

コモドアからのメッセージ

この年次報告書に掲載された各国のレポートを改めて読み、Fireballクラスが各国および地域レベルでこれほど多くの活動を行っていることに、あらためて驚かされました。

多くのレポートに共通しているテーマの一つが、若いセーラーをFireballクラスに迎え入れるための取り組みです。若いセーラーの獲得に苦労しているNCA（各国クラス協会）にとって、この年次報告書には参考になるアイデアや提案が数多く紹介されています。

若いセーラーが情熱と活力をもたらし、それがクラスの将来の成長を支える基盤になることは、私たち全員がよく理解しています。今日のFireballクラスを築き上げてきたすべてのNCAの努力に、心から敬意を表するとともに感謝いたします。

2025年を振り返ると、私にとってこの年は発展と変化の一年でした。

その始まりは2月、「Windermark」Fireballの新しいデッキデザインのお披露目でした。これは、Fireballのデザインをさらに進化させるため、テクニカル・コミッティー委員長のDave Hallが長年にわたって取り組んできた成果です。

その結果、2025年には15艇の新艇が登録されました。それ以前の4年間に登録された新艇がわずか3艇だったことを考えると、大きな前進です。

もちろん、年間1,000艇以上のFireballが建造されていたクラス創成期の数字には及びませんが、それでも非常に大きな改善です。

Dave Hallの長年にわたる努力には、Fireballに関わるすべての人から称賛が送られるべきでしょう。Fireball International Councilもその功績を認め、昨年の年次総会（AGM）で彼に名誉終身会員の称号を授与しました。これは新艇の開発だけでなく、約40年にわたってFireballクラスを支え続けてきた彼の多大な貢献に対するものです。

私にとって、もう一つの大きなハイライトは、美しいガルダ湖のCircolo Vela Arcoで開催された素晴らしいFireball世界選手権でした。

130艇を超えるFireballが一つのスタートラインに集まり、大会の写真や映像からも、その迫力と興奮が十分に伝わってきます。

優勝争いは2艇による大接戦となり、最終レースを前にその差は1ポイント未満でした。

最後は、最終レースを制したスイスのYves Mermod & Maja Siegenthaler組が世界チャンピオンに輝きました。心からお祝い申し上げます。

一方、惜しくもタイトルを逃したイギリスのDJ Edwards & Vyv Townend組にも、その素晴らしい戦いを称えたいと思います。

そしてもちろん、この素晴らしい大会を実現してくれたその他134チームの参加者全員にも、心からお祝いと感謝を申し上げます。

将来に目を向けると、Fireball International Executiveでは、数年前に策定した**戦略計画（Strategic Plan[1]）**の各項目を引き続き進めています。

その一環として、**Marketing and Fleet Development Committee（マーケティング＆フリート・デベロップメント委員会）**を設立しました。この委員会では、Fireballクラスの写真、動画などのマルチメディア素材を収集・整理するとともに、この年次報告書の制作も担当しています。

この役割を引き受けてくれたHeather Macfarlaneに、心から感謝します。

また、今後のチャンピオンシップについても、Fireballセーラーなら胸が躍るような開催計画を準備しています。

現在、世界選手権は2031年まで開催計画があり、さらに2027年と2028年にはヨーロッパ選手権も予定されています。

現在、各大会の日程を確定する作業を進めていますので、皆さんもぜひ予定表に書き込んでおいてください。

もちろん、この年老いた身体が持ちこたえてくれることを願いつつ、これらの大会で世界中のFireball仲間と再会できることを楽しみにしています。

Happy Fireballing!

Fireballセーリングを楽しみましょう！

Nick Rees

[1] https://www.fireball-international.com/the-class/strategic-plan/

各国クラス協会（NCA）レポート

世界各地では、地域でのレース活動に加え、国内大会や国際大会への参加など、さまざまな形でFireballセーリングが行われています。

ここでは、Fireballが活動している各国から寄せられたレポートをご紹介します。

ベルギー



Fireball Belgium — 灰の中からの復活

2025–2026 年次報告書

執筆：**Jules Orlent — NCA MFDC代表／NCA会長**
日付：**2026年4月28日**

はじめに

COVID-19のパンデミックによって、ベルギーでは一時ほとんど姿を消しかけたFireballセーリングですが、現在、目覚ましい復活を遂げています。

2024年末に慎重な試みとして始まった活動は、今ではベルギーのディンギーレース界でも特に注目すべき復活の物語の一つへと成長しました。

このレポートでは、私たちがこれまで歩んできた道のり、現在の状況、そして将来に向けた意欲的な計画をご紹介します。

復活への歩み



アントワープ **— 2025**年**11**月

2024年末、ベルギーにおけるFireballセーリングが最も低調な時期を迎えていた中、私たちは、このクラスにまだ活力が残っているのかを確かめるため、トレーニングセッションを開催することにしました。

その反響は、私たちの予想をはるかに上回るものでした。**12**艇が参加し、そこには誰の目にも明らかな熱気がありました。

誰もが再びFireballに乗れることを喜び、Fireballへの情熱は消えていたのではなく、ただしばらく眠っていただけなのだということが明らかになりました。

この勢いを受け、私たちは2025年に向けて本格的なレースおよびトレーニングの年間カレンダーを作成しました。シーズンを通して参加艇数は徐々に増加し、さらに**6**艇の新しい**Fireball**をフリートに迎えることができました。

これは素晴らしい成果であり、Fireballクラスが今なお人々を惹きつける魅力を持っていることを示しています。

新しいリーダーシップ、新しい方向性

2025年9月、クラスの復活を正式なものとするため、会員の投票によって新しい運営体制が決定しました。

- 会長：**Jules Orlent**
- 会計：**Piet Vermeiren**
- 書記：**Thomas Vermeiren**

新チームは直ちに活動を開始し、2026年にはベルギー国内で**10**大会を開催するという意欲的なカレンダーを作成しました。

わずか18か月前には、想像することさえ難しかったスケジュールです。

歴史的な節目

2026年**3**月、ベルギーのFireballセーリングは大きな節目を迎えました。

Belgian Sailingによる**Fireball**の公式クラス認定が承認されたのです。

これは私たちにとって非常に大きな前進です。公式な立場と支援が得られるとともに、今後の成長に欠かせないさまざまなリソースを利用できるようになります。

現在のフリート

現在、ベルギーには約**20**艇の**Fireball**があり、そのうち**17**艇が積極的にレース活動を行っています。

各大会への参加艇数は、開催地やコンディションによって**5**〜**12**艇程度です。

また、近隣諸国からの支援にも大いに助けられています。特にフランスのFireballフリートとの交流は、より広いコミュニティづくりにつながり、レースの競技レベル向上にも大きく貢献しています。





Plate Taille — 2026年3月

2026年の成長に向けた取り組み

現在の勢いを維持するため、私たちはいくつかの重要な取り組みを開始しました。

1. クラス所有艇のレンタルプログラム
   クラス協会でFireballを1艇購入し、シーズン単位または大会単位でレンタルできるようにしました。これにより、Fireballに興味を持つ新しいセーラーが参加しやすくなります。
2. 新しいウェブサイト
   コミュニケーションを改善し、活気あるFireballコミュニティを紹介するため、現代的なウェブサイトを立ち上げました。
3. プロフェッショナルによるトレーニング
   5月にはプロのコーチを招いたトレーニングを開催し、セーラーの技術向上と競技力強化を図ります。
4. 海上での国内選手権
   国内選手権を沿岸海域で開催し、新しいチャレンジに取り組みます。
5. 年間総合ランキング
   シーズンを通じたランキング制度を導入し、複数の大会への参加を促すとともに、年間を通じた安定した成績を評価します。
6. 若手セーラーの獲得
   CadetおよびEuropeクラスのセーラーに積極的に働きかけ、ディンギーレースの次のステップとしてFireballへの移行を勧めています。

活気を取り戻した中古艇市場

私たちのフリートが健全な状態にあることを示す、最も心強い兆候の一つが、艇の世代交代が再び始まったことです。

既存のチームがより新しい艇へ乗り換えるようになり、それまで使用していた艇が中古市場に出てくるようになりました。

この自然な循環はCOVID以前にはほぼ完全に途絶えていましたが、今では再び動き始めています。そして私たちは、この循環がクラスの長期的な健全性にとって極めて重要だと考えています。

このサイクルによって、若いチームは非常に手頃な価格で艇を購入でき、高額な初期費用を負担することなくFireballクラスに参加できます。

特に**Composite Winder**は入門艇として非常に優れており、十分な装備が整った艇でも**2,000**ユーロ以下で見つけることができます。

Fireballセーリングをより多くの人々にとって身近なものにする、非常に魅力的な価格帯です。



Composite Winderで決まり！ こちらは私たちの「**Young Guns**」！

これまでのところ、ベルギーにはまだ新しい**Windermark**艇は登場していません。

とはいえ、正直なところ、とても魅力的に見えます！

もしかすると、それが私たちのフリートにとって次の進化になるのかもしれません。

私たちの成長戦略

これまでの経験から、フリートを成長させるうえでいくつかの重要なことを学びました。

若い世代が鍵

若いセーラーを迎え入れることは、フリートを長期的に成長させるための成功の鍵です。

私たちは特に**25～35**歳のセーラーに注目しています。この年代にはエネルギーと意欲があり、これから長くセーリングを続けられる可能性があります。

安定したチームづくり

Fireballを試乗してもらうことは、クラスを知ってもらうきっかけとして有効です。

しかし、競争力のあるチームを育て、継続的な参加につなげるためには、シーズンを通して固定されたヘルムとクルーの組み合わせで活動することが重要だと分かりました。

ステップアップ元となるクラス

CadetやEuropeのセーラーに重点を置くことで、Fireballへの自然なステップアップの道筋を作ることができます。

これらのセーラーはすでに必要な技術と競技への意識を持っており、それらはFireballレースでも十分に生かすことができます。

手頃な価格で始められること

良好な状態の中古艇が適正な価格で入手できることは、新しいチームを呼び込み、Fireballを幅広い人々が楽しめるクラスとして維持するために欠かせません。

今後に向けて

私たちの当面の目標は、今シーズン中にさらに**3**艇を増やすことです。

これが実現すれば、アクティブなフリートは**20**艇となり、競争力のあるレースを行いながら、持続可能な大会運営を続けていくうえで理想的な規模になります。

しかし、私たちが目指しているのは単に艇数を増やすことだけではありません。

特定の一人に依存することのない、持続可能な組織づくりにも力を入れています。リーダーやボランティアの層を厚くすることが、長期的な成功には不可欠です。

そして何より楽しみなのが、**2028**年ヨーロッパ選手権を**Medemblik**で開催するためのベルギーの招致案を最終調整していることです。

大規模な国際大会を開催することができれば、私たちの復活を何よりも力強く証明するものとなり、次の世代のベルギー人Fireballセーラーを刺激することにもなるでしょう。

まとめ

ベルギーにおけるFireballセーリングの復活は、情熱を持ったセーラーたちが明確なビジョンを共有し、継続して努力すれば、何が実現できるのかを示しています。

一度のトレーニングに集まった**12**艇から始まり、公式なクラス認定を獲得し、わずか1年余りで**20**艇のフリートへ。

私たちは、ベルギーの**Fireball**スピリットが今もしっかりと生き続けていることを証明しました。

私たちの歩みはこれからも続きます。

世界中のFireballセーラーの皆さん、ぜひ私たちと一緒に水上へ出て、ベルギーFireballの歴史におけるこのエキサイティングな新しい章に加わってください。

Jules Orlent
Fireball Belgium NCA 会長
MFDC代表

ベルギーでの**Fireball**セーリング、今後のイベント、クラス所有艇のレンタルプログラムについて詳しくは、新しいウェブサイトをご覧いただくか、直接お問い合わせください。

アイルランド

アイルランドのFireballフリート

Neil Cramer — Irish Fireball Association 会長
2026年4月11日

クラスの成長

アイルランドのFireballクラスは、ここ数年で素晴らしい成長を遂げており、最近では**Irish Sailingの「Class of the Year（年間最優秀クラス）」**にも選ばれました。

この成長を大きく後押ししたのが、**2022年Fireball世界選手権をLough Derg Yacht Club（LDYC）、Dromineer**で開催したことです。この大会をきっかけに、多くの若いセーラーがFireballに関心を持つようになりました。

特に成果を上げているのが、**420**クラスとの緊密な連携です。この協力関係は双方のクラスにメリットをもたらしています。420セーラーにとっては、成人のディンギーレースへ進む明確な道筋となり、一方Fireballクラスにとっては、意欲的で経験豊富、そして競技志向の高い若手セーラーを迎える機会となっています。彼らはフリート全体の競技レベル向上にも貢献しています。

若いセーラー

現在、アイルランドのアクティブなFireballフリートは約**40**艇です。また、手頃な価格で良質な中古Fireballが市場に出るのを待っている若いセーラーも数多くいます。

若いチームにとって艇の購入価格は非常に重要です。そのためクラス協会では、経験豊富なチームが新しい艇へ乗り換えることで、より多くの手頃な中古艇が市場に出てくることを期待しています。

現在、入門用として理想的なのは、古くても十分にレースで戦える艇を約**2,000**ユーロで購入することです。

一方、市場の上位では、すでにアイルランドのセーラーによって**2**艇の新しい**Windermark Fireball**が購入されています。

毎年、少なくとも**5**つの地域レガッタが開催され、それぞれ平均して**15～22**艇が参加しています。アイルランド選手権とユース選手権には、通常それぞれ約**26**艇が集まります。

若いセーラーの参加を促進するため、Irish Fireball Associationでは、ユースおよび学生セーラーのエントリー費とクラス会費の一部を補助しています。この取り組み

は非常に効果を上げており、主要大会への参加を増やすうえで大きな役割を果たしています。

トレーニングと地域レース

多くの地域レガッタの前には、アイルランド国内および海外のトップコーチによる専門的なトレーニングセッションを実施しています。

トレーニングでは、ボートハンドリング、セッティング、ボートスピード、レース戦術などに重点を置いています。

また、Fireballクラスはクラブレースでも活発に活動しています。

Dún Laoghaireでは**DBSC**レースに定期的に参加しているほか、Corkの**Monkstown Bay Sailing Club**でもFireballレースが行われています。さらに、全国各地のクラブで開催されるヤードスティック方式のレースにも、多くのFireballが参加しています。

冬の間も活動は続き、Dún Laoghaireの**DMYC Frostbite Series**と**Monkstown SC Frostbites**の両シリーズには、定期的に多くのFireballが参加しています。

国際大会への参加

ガルダ湖で開催された**2025**年**Fireball**世界選手権には、アイルランドから**11**チームが参加しました。これは、アイルランドから世界選手権へ参加したチーム数としては過去**20**年間で最大でした。

さらに、兄弟の**Daniel Thompson & Harry Thompson**組が**Fireball**ユース世界チャンピオンに輝くという素晴らしい成果を挙げました。

この活躍により、二人はその後、President's Nominationにより**Irish Helmsman's Championship**への出場者に選ばれました。

2026年**Fireball**世界選手権はイギリスの**Torbay**で開催される予定で、ここにもアイルランドから大規模なチームの参加が期待されています。比較的移動距離が短いため、多くのアイルランドチームにとって参加しやすい大会となります。

さらに先を見据えると、すでに**2028**年にケニアの**Kilifi**で開催される世界選手権への参加についても計画が始まっています。

この素晴らしい開催地にはアイルランドのフリートからも大きな関心が寄せられており、できるだけ多くのチームを送り出す方法について検討が始まっています。素晴らしいセーリングコンディションと、魅力的な旅行先の両方を楽しめる特別な大会になることが期待されています。

まとめ

アイルランドでは、若いセーラーをクラスに迎え入れることが、私たちのフリートだけでなく**Fireball**クラス全体の将来にとって極めて重要であると考えています。

そのため、利用できるリソースを活用しながら、若いチームがFireballに参加し、長くクラスに留まって活動できるよう、可能な限り支援を続けています。

2026年イベントカレンダー

Irish Fireball 2026 イベント:
fireball-ireland.com/events/

写真キャプション　写真提供：**Bob Bateman**

写真は、Fireballが現在アイルランドで最も急速に成長しているクラブである**Monkstown Bay Sailing Club**主催の**Munster Championship**で、Cork州**Cobh**沖を帆走している様子です。

1. スタート **2.** 風上マーク **3.** 最初のリーチングレグでのクローズアップ **4. 2**本目のリーチングレグ









スイス

Swiss Fireball レポート　　Marketing and Fleet Development Committee

Tobias Frey（Swiss Fireball メディア／コミュニケーション担当）
2026年5月20日

1. はじめに

まずは良いニュースから。スイスには現在、Fireballクラスのヨーロッパチャンピオン **Claude Mermod & Ruedi Moser**、そして世界チャンピオン **Yves Mermod & Maja Siegenthaler**がいます。これは、スイスのFireballセーリングのレベルの高さをよく表しています。

シーズン中は、春から秋にかけて国内各地で**10～12**のレガッタが開催され、活発な活動が続いています。会場間の距離も比較的短く、ほとんどの大会には車で3時間以内で行くことができます。

会員数は安定しており、さらにジュニアの人数が少しずつ増えていることも、心強い傾向です。

とはいえ、他の多くのディンギークラスと同様、私たちにも課題があります。このレポートでは、Swiss Fireballの現在の姿——うまくいっていること、直面している課題、そして今後成長できる可能性——を率直にご紹介します。

2. 現在のフリート状況

私たちは、特にジュニアにとってFireballフリートが参加しやすいものになるよう、積極的に取り組んでいます。

Swiss Cupの全レガッタ（スイス選手権を含む）のエントリー費を、ジュニアセーラーについては全額クラス協会が負担しています。これは、参加へのハードルを下げ、若い世代を本気でクラスに迎え入れたいという私たちの姿勢を示す、最も具体的な取り組みの一つです。

チャーターボートについては、現在レース可能なレンタル艇を**1**艇運営しています（以前は2艇でした）。この艇を利用してSwiss Cupに参加するセーラーには、費用の一部を還元しています。まだ自分の艇を購入する準備ができていないチームにとって、Fireballに参加しやすい仕組みとなっています。

2.1 課題

高齢化するフリート

現在、アクティブなセーラーのかなりの割合が退職年齢に近づいています。彼らは今も水上で元気に活躍していますが、それにいつまでも頼ることはできません。次の世代となる若いチームが必要です。

問題は、その若いセーラーをどう見つけるかです。

スイスではディンギーセーリング全体が減少傾向にあります。実際、ジュニアクラスの**29er（成長中）と420（減少傾向）**を除けば、Fireballは現在、正式な国内選手権と年間を通じたレースシリーズを開催している、最後の成人向け2人乗りディンギークラスとなっています。

さらに、スイスの湖の風は安定せず、湖によっても大きく異なるため、必ずしも理想的なトレーニング環境とは言えません。

そのため、多くの若者がウイングフォイルなどに魅力を感じています。より気軽に楽しめ、風さえあればさまざまな水面ででき、しかもクルーを必要としないからです。

Quagga Musselと湖間の艇移動

ここ約1年半、スイス国内で艇をある湖から別の湖へ移動する際には、追加の書類手続きと洗浄が必要になっています。

これは外来種の拡散防止を目的とした規制によるもので、現在特に問題となっているのが**Quagga Mussel（クアッガガイ）**です。

レガッタやトレーニングのための移動には一部特例がありますが、義務付けられた洗浄手順は依然として適用されます。そのため、異なる湖でセーリングするには実際にかなりの時間と手間がかかります。

私たちは関係当局と継続的に連絡を取り、会員にとってできる限りスムーズな手続きとなるよう努めていますが、この問題は当分の間なくなりそうにありません。

新しい人たちにFireballを知ってもらう

世の中には、すでにセーリングをしている人はもちろん、これまで一度もセーリングをしたことのない人の中にも、実際に体験する機会さえあればFireballを気に入ってくれる人がたくさんいるはずだと考えています。

問題は、どうやってその人たちに**Fireball**を知ってもらうかです。

そこで私たちは、まず認知度を高めることが第一歩だと考え、**Instagram**と**Facebook**での発信を強化しています。

それが実際にスタートラインに並ぶ新しいチームにつながるかどうかは、まだ分かりません。しかし、現時点ではこれが私たちにとって最も有効な手段です。

Fireballに興味を示す人がいれば、できるだけ早く水上に出てもらうようにしています。経験豊富なセーラーのクルーとして乗ってもらったり、レガッタに参加してFireballの雰囲気を実際に体験してもらったりしています。

より多くのチームを国際大会へ

現在、Antibesの**Ski Voile**や、ヨーロッパ選手権、世界選手権といった国際大会に定期的に参加するスイスチームは、まだほんの一握りです。

参加をためらう理由として最もよく聞くのは、長距離の移動、仕事を休む必要があること、慣れていない（そして多くの場合、風の強い）レース会場、そして**General Recall**（ゼネラルリコール／総リコール）が繰り返され、丸一日を費やしてしまう可能性などです。

この課題については、まだ決定的な解決策を見つけられていません。

現在試みている方法の一つは、国際大会を**SNS**でもっと積極的に紹介することです。

実際の大会がどのようなものなのかを見てもらうことで、国際大会への心理的なハードルを少しでも下げたいと考えています。特に、参加しようかどうか迷っている若いセーラーにとって、国際大会がそれほど敷居の高いものではないと感じてもらえればと思っています。



Swiss Nationals Silvaplana 2024 — © Urs Härdi



Paola and Marco - Swiss Nationals Neuchâtel 2025 — © Urs Härdi





Neuchâtel湖、40ノットの風の中でのレース — © Urs Härdi

多国籍の参加となった**Swiss Nationals Neuchâtel 2025** — © Urs Härdi

2.2 今後の可能性

豊富なレース機会

Swiss Cupは4月から11月まで開催され、国内各地で**10～12**大会が行われます。

国際大会の日程とも可能な限り調整しており、ヨーロッパ選手権や世界選手権を目標とするチームが、段階的に準備できるようなカレンダーになっています。

ランキングは各セーラーのベスト**6**レース結果をもとに決定され、以下の各賞が用意されています。

- 総合上位6名
- 最も積極的に参加したメンバー
- 最も積極的に参加したジュニア
- 最優秀ミックスチーム

どのレベルのセーラーにも、目標を持ってレースを楽しめる仕組みになっています。

知識はみんなで共有

Swiss Fireballフリートには昔から、知識をオープンに共有する文化があります。

チューニングのヒント、戦術、リグセッティングなど、さまざまな情報が水上で直接共有されるだけでなく、ウェブサイトや年4回発行される**Gazette**でも紹介されています。

このGazetteはすでに**60**年間発行されており、過去の全号がオンラインで閲覧できます。

まだFireballに慣れていないチームにとって、このような情報共有は大きな助けになります。そして、みんなが速くなれば、レースそのものも全員にとってより面白くなります。

Port CamargueとMammern

フランスの**Port Camargue**で毎年行われるトレーニングウィークは、Swiss Fireballの年間活動のハイライトの一つです。

通常、**10～15**チームが南フランスまで遠征し、海水で、そしてしばしば本格的な風の中で1週間のセーリングを楽しみます。

国際大会を目指すチームにとって素晴らしい準備になるだけでなく、フリートの仲間たちと一緒に過ごす、とても楽しい一週間でもあります。

一方、スイス国内の**Mammern**で開催されるトレーニングウィークエンドでは、よりリラックスした環境で個別のコーチングを受けることができます。

フランスまで行けないチームや、経験豊富なセーラーからマンツーマンに近い指導を受けたいチームにとって、貴重な機会となっています。

オリンピックチームが私たちと一緒にレース

近年のSwiss Fireballフリートにとって特に素晴らしい出来事の一つが、現役の**470**オリンピックキャンペーンチームが主要大会で私たちと同じスタートラインに立っていることです。

彼らは**2025**年スイス選手権で優勝し、2026年にも再び参加する予定です。また、**2025**年**Arco**世界選手権でも優勝しました。

彼らが持ち込んでくれる知識、特に艇や装備、戦術に関する知識は、本当に貴重なものです。そのエネルギーもフリート全体に良い刺激を与えています。

さらにクラスの認知度向上にも貢献しており、彼らの個人的な推薦によって、今年は私たちのレンタル艇を利用する新しいチームも見つかりました。

クラスのレンタル艇

チャーターボートだけでフリートが成長するわけではありませんが、非常に役立つツールです。

新しくFireballを始めたい人が、すぐに艇を購入しなくてもクラスに参加できる方法を提供しています。

他国のNCAでも、同じような考え方や取り組みが始まっていることを嬉しく思います。

メディアと認知度

ソーシャルメディアは、現在では会員以外の人々にもFireballの情報を届けるための、私たちの主要なコミュニケーション手段となっています。

ガルダ湖での世界選手権期間中、毎日の投稿は約**5,000**人に届いていました。

そして**Yves Mermod & Maja Siegenthaler**が世界選手権で優勝した際には、私たちが発信したプレスリリースの効果もあり、国内外のメディアで大きく取り上げられ、クラスにとって大きな追い風となりました。

こうしたメディア活動は、過去数十年にわたり数え切れないほどのFireballイベントを撮影してきた**Urs Härdi**の素晴らしい写真なしには成り立ちません。

彼の写真アーカイブは、他国のNCAを含め、誰でも利用できるよう公開されています。

3. まとめ

スイスの状況で興味深いのは、不足しているのは艇ではなく、乗るチームであるということです。

これは他の多くのフリートが抱えている問題とは少し異なり、私たちが何を優先すべきかにも影響しています。

最大の課題は、若いセーラーに**Fireball**への興味を持ってもらい、継続して参加してもらうことです。

これは簡単なことではありません。ディンギーレースにはかなりの時間と熱意が必要であり、もっと気軽に始めたりやめたりできる多くのアクティビティとも競合しています。

私たちはさまざまな方法を試しながら取り組みを続けていますが、まだすべての答えを見つけたわけではありません。

これからの数年間で、Swiss Fireballがどの方向へ進んでいくのかが、よりはっきりと見えてくるでしょう。

私たちはこれからも活動を続け、新しいことを試しながら、前向きな気持ちで未来を見据えていきます。

写真キャプション



素晴らしい景観 — **Swiss Nationals 2026** — © Peter Kupferschmied



そしてダウンウインドからの眺め — **Swiss Nationals 2026** — © Peter Kupferschmied

日本

太陽、海、そして冷たいビール！Fireball Japan 2025を振り返って

執筆：加藤 博（**Hiroshi Kato**）

世界中のFireball仲間の皆さん、こんにちは！

私たちのフリート

2025年の日本での素晴らしいFireballセーリングを振り返ってみましょう！

毎週のように海に出ているわけではありませんが、私たちのFireballへの情熱は以前にも増して強くなっています。

私自身も、美しい江の島の海で少なくとも月に1回はセーリングすることができ、全日本選手権を含め、シーズンを通してさまざまなフリートレースに参加して、大いに楽しみました！

現在、日本で活動しているFireballフリートは、2つの素晴らしい海辺の拠点に分かれています。

江の島に**5**艇、葉山に**2**艇です。

この2つの拠点は約10km離れていますが、レガッタで集まるときには、いつも同じレース海面で一緒にレースをしています。

しかも、どちらも東京の中心部から電車でわずか**1**時間半ほど！

日本を訪れることがあれば、ぜひ私たちと一緒にセーリングしてください。大歓迎です！

数年前に**Nick Rees**が遊びに来てくれたのを覚えていますか？ 私たちは彼を迎えることができて本当に楽しかったですし、皆さんにもぜひ来ていただきたいと思っています！

私たちのレガッタ

2025年には、2つの主要な公式イベントを開催しました。どちらもアクション満載でした！

サマーレガッタ（**8**月）

8月中旬の日本はもちろん暑くて湿度も高いのですが、昼頃に吹き始めるシーブリーズは期待を裏切りません。とても安定していて、レースには最高の風です！

1日でスリリングな**4**レースシリーズを行い、**Tasar**フリートとの合同スタートでレースを楽しみました。

Fireballは**4**艇がスタートラインに並び、**14808**号艇が優勝しました。

小さなフリートではありましたが、接戦のレースは最高でした。

そして正直なところ、岸に戻ってから飲んだキンキンに冷えたビールは、まさに天国でした！

Fireball全日本選手権**2025**（**11**月**22**～**23**日）

シーズンの前半には天候による延期もいくつかありましたが、11月下旬、ついに**7**艇のフルフリートが全日本選手権に集まりました。

レースはとても白熱し、ポイント計算のちょっとした行き違いから、水上で突然、ドラマチックなタッキングデュエルが始まるほどでした！

真剣勝負でありながら、笑いもあり、とにかく最高に楽しいレースとなりました。

これからに向けて……

日本のフリートが世界選手権などの国際大会に参加してから、しばらく時間が経っています。

2022年以降の円安により、日本からコンテナを輸送する費用は、7艇規模のフリートにとって大きな経済的負担となっています。

しかし、それで私たちの情熱が冷めたわけではありません！

メンバーの中には、将来の国際選手権に参加するために、ヨーロッパで艇を購入し、そのまま現地で保管しておくといった、ちょっとクリエイティブな解決策まで考えている人もいます。

たとえ実際にスタートラインに立つことができなくても、世界選手権が開催されるたびに、日本のFireballコミュニティは大いに盛り上がります。

レースの展開を追いかけ、みんなでレースについて語り合い、そして私たち自身が再び国際大会のスタートラインに戻れる日を心待ちにしています。

それまでは、皆さんに良い風が吹きますように。

そして、近いうちに日本で皆さんにお会いできることを楽しみにしています！

写真キャプション



江の島をセーリングする日本の**Fireball** © Japan Fireball Class Association

オーストラリア

Fireball Australia 活動報告 2025–2026

執筆：**Andrew Kean & Heather Macfarlane**

概要

全体の会員数は、Geelongで世界選手権が開催された2024年の特別に高い水準にはまだ及びませんが、さまざまな参加指標を見ると、クラスはその後しっかりと基盤を固め、再び成長の兆しを見せています。

会員数

2025～2026年シーズンには、会員数が大きく増加しました。

年	ユース	会員総数	登録艇数
2024	11	71	39
2025	9（＋名誉会員6名）	54	27
2026	16（＋名誉会員5名）	66	33

この増加は、世界選手権開催年のピークを経た後、クラスが再び成長に転じていることを示しています。

選手権への参加

過去3シーズン、国内選手権および州選手権への参加艇数は比較的安定しています。

大会	2024	2025	2026

Australian National Championship	29（海外23艇を含む）	19（海外1艇を含む）	21（海外3艇を含む）
Australian Youth National Championship	—	9	8
South Australian State Championship	8	6	7
Victorian State Championship	14	10	15

2024年のAustralian Championshipの参加艇数が特に多かったのは、Victoria州Geelongで開催されたFireball世界選手権と同時開催されたためです。

この特殊な事情を除けば、参加艇数はおおむね安定しており、2026年には緩やかな増加が見られます。

国際大会への参加

ガルダ湖で開催された2025年世界選手権には、オーストラリアから17艇が参加しました。

これは、海外で開催されたFireball International Championshipに参加したオーストラリアチームとして過去最大規模となりました。



この実績は、国内フリートの強さと、特に魅力的な海外開催地での国際大会に積極的に参加しようとするメンバーの熱意を表しています。

すでに2028年ケニア世界選手権についても大きな関心が寄せられており、再び強力なオーストラリアチームを送り出すことが期待されています。

この継続的な国際大会への参加意欲は、Australian Fireballクラスを特徴づける重要な要素の一つです。

艇の所有者交代とフリートの世代交代

中古艇市場は健全で活発な状態にあり、今年は13艇が新しいオーナーの手に渡りました。これは2024年世界選手権以降に始まった前向きな傾向が続いていることを示しています。

多くの艇が新しいオーナーへ移っていることに加え、National Championshipへの初参加者の割合が高いことから、既存メンバーを維持しながら、新しいセーラーをフリートに迎えることにも成功していると考えられます。

さらに、オーストラリアでは3人のFireballオーナーがWindermarkの新デザインFireballを購入しました。長期的には、こうした新艇の導入もフリートの継続的な更新に役立つでしょう。

Australian Youth Championshipsの復活 — 2025年

若いセーラーがFireballクラスへ進むための道筋を作ることを目的として、Australian Youth Championshipsが2025年に復活しました。

この取り組みは、すでに良い成果を上げています。

2025年の第1回Youth Championshipsに参加したチームのうち、3つのユースチームがその後、2026年Australian National Championshipと、それぞれのState Championshipの両方に出場しました。

これはYouth Championshipsが若手セーラーの育成とステップアップの場として有効に機能していることを示しており、Fireball Australiaが若手参加促進への投資を戦略的な優先事項として継続していくうえで、大きな励みとなっています。

#MFSMO ソーシャルメディア・キャンペーン

Fireball Australiaは、Fireballセーリングの認知度を高め、より多くの参加を促し、クラスの活発さと楽しさを広く伝えるため、#MFSMO – More Fireballs Sailing More Oftenというソーシャルメディア・キャンペーンを実施しました。

セーラーたちに、FacebookやInstagramへ**#MFSMO**のハッシュタグを付けて投稿してもらうという取り組みです。



*2025*年*National Championship*に参加し、「*More Fireballs Sailing More Often*」のロゴを掲げた艇

このキャンペーンは大いに盛り上がり、ソーシャルメディア上でのFireballの露出を増やすとともに、Fireballコミュニティ内の交流をさらに深めることにも成功しました。

このキャンペーンは来シーズンも継続する予定です。

まとめ

艇の活発な売買、成長を続けるユースプログラム、そしてNational Championshipへの初参加者が継続的に加わっていることは、Fireball Australiaが長年培ってきた競争力と国際志向の伝統を維持しながら、フリートの世代交代を着実に進めていることを示しています。

Fireball Australiaは、今後もこの基盤をさらに発展させ、国際的なFireballコミュニティに積極的に貢献していくことを楽しみにしています。

特に注目すべきなのは、2026年Australian National Championshipに参加した48名のセーラーのうち17名（35%）が、Fireball Nationalsへの初参加者だったことです。

長い歴史を持つ成熟したクラスで、これほど高い割合の新規参加者がいることは珍しく、フリートの世代交代が進んでいることを示す非常に力強い指標です。

カナダ

Fireball Canada 年次報告書 2025

Fireball Canadaのニュースサイトおよび季刊誌「**FIREBULL**」の記事をもとに作成

概要

カナダのFireballフリートにとって、2025年は非常に前向きな一年となりました。新たなリーダーシップ、会員数の大幅な増加、そしてCanadian Championshipへの高い参加率が、その大きな特徴です。

カナダでは各地域のフリート間が非常に離れているという地理的な課題がありますが、British Columbia、Alberta、Ontario、Quebecでは、それぞれ活発なFireballセーリングが続いています。

また、国際大会への参加も継続され、将来カナダで再びFireball世界選手権を開催する可能性についても、新たな検討が始まりました。

リーダーシップと将来計画

Eric Dillerは2025年の任期途中にCanadian Fireball Association会長に就任し、すぐに国内外で積極的な活動を始めました。ガルダ湖で開催されたFireball Internationalの会議にも、カナダ代表として出席しています。

協会は強力な委員会によって支えられており、2019年にQuebec州Pointe-Claireで開催された世界選手権の期間中、そしてその後も協会を支え続けてきたベテランメンバーから、新しいメンバーへと徐々に役割が引き継がれています。

North American Rear CommodoreのEvelyn ChisholmとCanadian Fireball Associationは、カナダで再び世界選手権を開催する可能性について、候補地の検討を始めるようメンバーに呼びかけています。

その目的は、日本が2031年大会への立候補を行わない場合、2031年に予定される次のヨーロッパ外での世界選手権をカナダで開催する機会に対応できるよう、十分な準備を進めておくことです。

また、現在計画されているFireball Internationalの選手権開催サイクルが予定どおり進んだ場合には、2035年の世界選手権開催候補地としてカナダを位置づけることも考えられています。

会員数とフリートの成長

2025年における最も心強い動きの一つが、会員数の増加でした。

登録艇数は約60%増加し、セーラーの登録数はほぼ倍増しました。また、新たにユース／学生会員も加わりました。

2025年末までに、協会の会費納入済み会員は約50名となり、ここ数年間で最も高い会員数となりました。

この成長は、Vancouverで開催された2025年Canadian Championshipにも表れています。

全国各地から17艇が集まり、3日間にわたって接戦が繰り広げられました。この大会は各地のセーラーが一堂に会する機会となり、カナダのFireballフリートにとって重要な年間イベントとなりました。

この勢いは2026年にも続き、6月12～14日にAlberta州のWabamun Sailing Clubで開催された2026 Fireball North American Championshipsにも17艇が参加しました。

最近のFireball Nationalsの様子については、ぜひ大会のYouTube動画もご覧ください。

地域でのセーリング活動

カナダの広大な国土は、全国のFireballフリートが定期的に一か所へ集まるうえで、今も大きな課題となっています。

しかし、その一方で、British Columbia、Alberta、Ontario、Quebecには、それぞれ活発な地域フリートがあります。

British Columbiaではシーズンを通して定期的なレースが行われ、若いセーラーも数多く参加しました。

Albertaでは夏の間に8艇のFireballが活動し、そのうち7艇がCanadian Championshipに参加するためVancouverまで長距離を遠征しました。

Ontarioでは規模は比較的小さいものの、クラブでの混合フリートレースを通じてFireballの活動が続いています。

一方、Quebecではシーズン終盤にFireballクリニックを開催し、若いセーラーに2人乗りディンギーセーリングを紹介しました。また、長年続いているScrewball Regattaにも参加しました。

こうした地域フリートは、定期的なレース活動を維持するとともに、新しいセーラーがFireballを体験する機会を提供するうえで、今後も非常に重要な役割を担っています。

国際大会への参加

カナダのセーラーは2025年も、長年にわたる国際大会への参加の伝統を継続しました。

イタリアのガルダ湖で開催されたFireball世界選手権には3チームが参加しました。

また、カナダ代表はガルダ湖で行われたFireball Internationalの会議にも出席し、国際クラスの運営にも積極的に関わり続けています。

すでに2028年ケニア世界選手権にも大きな関心が寄せられており、大会へ艇を輸送するためのカナダからのコンテナ輸送についても話し合いが始まっています。

このように海外大会へ積極的に参加しようとする姿勢に加え、カナダで再び世界選手権を開催する可能性についての議論が始まったことは、カナダのフリートが国際的なFireballコミュニティに引き続き強く関わっていることを示しています。

コミュニケーションとクラスのPR

2025年の大きな進展の一つが、Canadian Fireball Associationの伝統あるニュースレター、**「FIREBULL」**の復活でした。

FIREBULLは2025年に再刊され、国内および各地域のニュース、レガッタレポート、技術情報、歴史に関する記事、今後の大会案内などを定期的に発信する場となりました。

また、協会はオンラインでの情報発信やソーシャルメディアも引き続き充実させています。

国土が広大で、各地域のセーラーが地理的に離れているカナダにおいて、こうしたコミュニケーションはフリート同士をつなぐ重要な役割を果たしています。

まとめ

2025年は、Canadian Fireball Associationにとって将来への期待を感じさせる一年となりました。

会員数の増加、登録艇数の伸び、**17**艇が参加した成功した**Canadian Championship**、そして新たなリーダーシップの誕生は、いずれもクラスが良い方向へ進んでいることを示しています。

特に、広大な国土によって各フリートが遠く離れているカナダでは、地域レベルでのセーリング活動を維持することが非常に重要です。

その一方で、カナダのセーラーは国際的な活動にも積極的です。ガルダ湖世界選手権への参加、2028年ケニア世界選手権への強い関心、そして将来カナダで世界選手権を開催する可能性についての初期検討など、その国際志向は今も健在です。

経験豊富なベテランと、協会活動への関与を深めている新しいセーラーが力を合わせる強力な委員会、そして増加する会員数を背景に、カナダのFireballフリートは2025年に築いた勢いを今後さらに発展させていくための、非常に良い位置にあります。



*2025*年*9*月*20*日・*21*日に*Pointe-Claire*で開催された第*43*回*Screwball Regatta*での一枚。

このレガッタは現在、「Screwball – Peter Kelly Memorial Regatta」という名称で親しまれています。国際大会に参加したことのあるセーラーの中には、2019年Fireball世界選手権の開催運営やビデオ制作で重要な役割を果たしたPeter Kellyを覚えている方も多いでしょう。



「*2025*年*Canadian Fireball Championships*は、私たちが期待していた以上の素晴らしい大会となりました。」*Jericho Sailing Centre*（*Vancouver, British Columbia*）にて。

チェコ共和国

2025–2026 チェコFireballフリート年次報告書

執筆：**Dominik Dragoun**

2025年のガルダ湖世界選手権に**15**艇の強力なチェコチームが参加したのに続き、チェコのFireballフリートは2026年シーズンも活発な活動を続け、活気あるコミュニティの精神を発揮しています。

国内大会

Czech National Cupシリーズには、約**20**チームが定期的に参加しており、競争力と熱意を兼ね備えたフリートの中核を形成しています。

また、今シーズンは複数の新しいチームも加わり、クラスに新たな活力と熱意をもたらしています。

2026年のNational Cupでは、すでに**Nové Mlýny**、**Rozkoš**、**Nechranice**、**Lipno**の4か所で主要大会が開催されました。いずれもチェコを代表する素晴らしいセーリング会場で、それぞれ異なるコンディションの中でレースが行われました。

難しい強風コンディションの中、フリート全体で非常に接近したレースが繰り広げられました。各大会では表彰台の順位が同点ポイントで決まるほどの接戦となりました。



*Czech National Cup — Nechranice*湖、*2026*年*6*月

メインシリーズに加えて、チェコ国内の比較的小さな水域でも、伝統ある地域レガッタが数多く開催されています。

Bolevák、**Máchovo jezero**、**Orlík**、**Bezdrev**、**Svět**、**Poděbrady**などの大会には、毎年安定した参加があります。

さらに、毎年1月初旬には**Krkonoše**山地で、クロスカントリースキーとスラローム競技を組み合わせた伝統的な**Ski Regatta**も開催されています。

これらのイベントは年間カレンダーの重要な一部であり、短時間で集中力が求められるレースと、Fireballコミュニティならではの素晴らしい雰囲気を組み合わせています。

Czech National Cup 現在の順位（3大会終了時点）

1. Johanka Nápravníková Kořanová / Jakub Nápravník
2. Lucie Šturs ová / Dominik Dragoun
3. Jiří Parůžek / Přemysl Čechura





*Czech National Cup — Lipno*湖、*2026*年*7*月

今シーズンはまだ2つの主要大会が残っているため、総合順位の行方はまったく分かりません。**Czech Cup**と**Czech National Championship**、どちらのタイトルもまだ十分に狙える状況です。

シリーズの最終結果は、シーズン後半の以下の大会で決まります。

- **Autumn Czech Cup — Nechranice**：**9**月**5**〜**6**日
- **Czech National Championship — Nové Mlýny**：**9**月**26**〜**28**日

海外からのチームやゲストの皆さんにも、ぜひこれらの大会に参加していただき、チェコの**Fireball**セーリングを実際に体験していただければ嬉しく思います。

レースだけではない**Fireball**の魅力

チェコFireballフリートを特徴づけているのは、レースそのものだけではありません。

フリートの雰囲気はいつもフレンドリーで、活気があり、誰でも歓迎するもので、チーム同士の強い絆を育んでいます。

そしてチェコのFireballセーラーは、セーリングの腕前だけでなく、音楽好きとしても知られています。

レース後の夜には音楽が始まり、仲間たちと一緒に過ごす時間が、忘れられない楽しい集まりになることもしばしばです。

チェコのフリートはこれからも、高いレベルの競技性と、あらゆるレベルのセーラーを歓迎するオープンでフレンドリーな環境の両方を大切にしていきます。





Czech Ski Regatta — 2026年1月

クラス会長：Jakub Nápravník
執筆：Dominik Dragoun

写真提供：Eliška Kuthanová、Zdeněk Parůžek、Petr Čepela

フランス

Fireball France：ダウンウインドを駆け抜けて！

執筆：**Claude Guérin**

フランスのFireballクラスは、ますます勢いを増しています！

西部地域は引き続き最も活発な拠点ですが、南部でも再び活動が活発になり、地中海を舞台に**Fireball**セーリングが盛り上がっています。

スイスやイタリアの仲間たちと地理的に近いこともあり、ここ数年、大会数と会員数は着実に増加しています。その中には、セーリングとスキーを組み合わせたイベントまであります！

世代を超えた交流によって知識や経験が受け継がれていることも、フランスのフリートの特徴です。**40**年前に**Fireball**でレースをしていたセーラーがクラスに戻ってきて、純粋にセーリングを楽しみ、仲間と楽しい時間を過ごしながら、Fireballの魅力を再発見する姿も見られます。

クラスが再び活気を取り戻している理由の一つは、もちろん**Fireball**という艇そのものにもあります。他の艇と比べても驚くほど現代的で、多用途性に優れています。

活発で、丈夫で、さまざまなタイプのクルーに適し、多様なコンディションでセーリングできるFireballは、まさに時代を超えたディンギーです。

いわば「マルチボート」――マルチタスクで、多機能！

他のクラスのセーラーたちも惹きつけています。

Fireballか、それとも……？
答えはもちろん、**Fireball**！！

フランスのレガッタサーキットは、**25**以上の大会で構成され、Brittanyの先端からイタリア国境近くまで、フランス各地に広がっています。

毎年Easterには、協会が**3**日間のトレーニングを開催します。冬の眠気を吹き飛ばし、デッキのほこりを払い落として、新しいシーズンに備える絶好の機会です！

レガッタやトレーニングは、経験や思い出を共有する機会でもあります。そして時には、会話を一層弾ませてくれる飲み物も登場します。

中には「**Destop**」と呼ばれる飲み物まであります。ちなみに、本来Destopとは排水管の詰まりを取るための製品です……まあ、あとはご想像にお任せします！



Ski-Sail Event — Antibes 2026 写真提供：*Esteban Hernandez*

Teignouse's Cupへの参加艇数も、引き続き安定して高い水準を維持しています。

Saint-Raphaël Regattaは、参加艇数の面で年間最大の大会となっています。

イタリアから参加するセーラーたちによって、フリートにはさらに高いレベルの競争が加わります。リーグレガッタや他クラスとの合同イベントにもさまざまなセーラーが参加し、**Fireball**というクラスの魅力そのものを示しています。



*Teignouse's Cup*に参加するセーラーたち

2026年には、世界でもユニークなレガッタである**「3P」の30周年**を祝いました。

このレースは、**Paimboeuf**から橋まで行き、そして戻ってくるというものです。



*3P 30*周年！ 素晴らしい時間！

私たちはLoire河口で、風上－風下コースのレースとロングディスタンスレースを開催しています。そして専属シェフが作る巨大なパエリアも欠かせません！

7月下旬には、世界選手権がイギリスで開催されます。今やイギリスの気温も（ほとんど）地中海並みです！

それは嬉しいことです。少なくとも、ビール代の請求書を正当化できますから！

もちろん、それでシーズンが終わるわけではありません。**9**月から**12**月までレガッタが続きます。

Fireballセーラーたちはキールボートのレースでも素晴らしい成功を収めています。

2025年には**Tour du Finistère**で総合優勝を果たし、Fireballの旗を表彰台に掲げました。

今年もその成果を再現すること、そして他の多くのレガッタでもFireballの旗を表彰台に掲げることを目指しています。

したがって、私たちは二つの課題に取り組んでいます。

一つは、地域での成功を基盤として、国内で現在の勢いを維持すること。

もう一つは、ヨーロッパ、さらには国際レベルで積極的に活動し、**Fireball**クラス全体の発展に貢献することです。



*Fireball*で楽しみながら始まった、情熱あふれるセーリング人生

*2018*年*Carnac*で、父親のために*Fireball*のヘルムを取っていた幼い*Rafaël Allain*。
現在、彼は*29er*ヨーロッパチャンピオンです。

Fireball Internationalよ、永遠に！

KISS — Keep It Simple and Sexy!
（シンプルに、そしてセクシーに！）





*Saint-Raphaël — 2027*年*Fireball*ヨーロッパ選手権開催地

*2027*年ヨーロッパ選手権の開催地となる*Saint-Raphaël*。フランス南東部、*Côte d'Azur*（コート・ダジュール）に位置しています。

イタリア

イタリアFireball協会のウェブサイトおよびニュースレターからの抜粋

Fireball Italy 年次報告書 2025–2026

概要

2025年は、イタリアのFireballクラスにとって記念すべき一年となりました。その最大のハイライトは、ガルダ湖のArcoで開催されたFireball世界選手権の成功でした。

世界選手権は国内シーズンの大きな目標となり、クラス全体に新たな熱気をもたらしました。イタリアのフリートでは、経験豊富なセーラーたちが引き続き活躍する一方、420クラスやその他のユースクラスからステップアップしてきた若いチームも増えています。

国内、地域間、そして国際大会を組み合わせた充実したレースプログラムによって、全国各地で活発な活動が続きました。また、2026年のカレンダーからも、世界選手権によって生まれた勢いを維持しようとする協会の強い意欲がうかがえます。

Arcoでの世界選手権

2025年最大のイベントは、8月22〜30日にCircolo Vela Arcoで開催されたFireball世界選手権でした。

この大会には14か国から136艇が参加し、近年のFireball世界選手権の中でも最大規模の大会の一つとなりました。

これほど多くの艇が集まったことは、Fireballクラスが国際的に今なお高い人気を誇っていること、そしてイタリアが大規模な国際選手権を開催する能力を持っていることを改めて示しました。



ガルダ湖での*136*艇による迫力あるスタートライン — *© Elena Giolai*

世界選手権はイタリアの2025年シーズンの中心的な大会となりました。国内レースプログラムも、さまざまな会場や異なるコンディションで事前に経験を積めるよう構成されていました。

また、この世界選手権は、イタリア国内でFireballの魅力を広く紹介するとともに、イタリアのフリートと海外から訪れたセーラーたちとの交流を深める絶好の機会にもなりました。

イタリア選手権と国内大会への参加

2025年イタリア選手権は、5月23～25日にSanremoで開催され、4か国から28艇が参加しました。

内訳は、イタリア20艇、フランス5艇、スイス2艇、チェコ1艇でした。

優勝したのは、新たにチームを組んだCicconetti & Bortesi組です。

二人は総合優勝とイタリア国内タイトルを獲得しただけでなく、Under-25部門でも優勝しました。

特に心強いのは、彼らが420クラスやその他のユースクラスから最近Fireballに転向してきたチームの一つだったことです。



イゼーオ湖の北端に位置する*Lovere*に集まったイタリア*Fireball*フリート。国内レースであると同時に、*2025*年*Arco*世界選手権に向けた最後から*2*番目の実戦準備の機会となりました。

この1年間には、ほかにもユースクラスから4チームが新たにFireballフリートへ加わりました。

このような若いセーラーのステップアップの道筋が生まれていることは、イタリアのFireballクラスの将来にとって、最も期待できる動きの一つです。

イタリア選手権では、フリートの多様性も示されました。

イタリア勢の中ではDagnino & Capizzi組が2位、Ascoli兄弟が3位となりました。

Mugnano & Kostka組はClassic部門で優勝し、女性同士のチームであるFranco & Cavallo組は総合7位に入り、女子部門でも優勝しました。

国内レースプログラム

2025年の国内レースプログラムには、Lerici、Salivoli、Lovere、Rapalloでのナショナルレガッタに加え、Sanremoでのイタリア選手権が含まれていました。

地域間大会はDesenzano、Diano Marina、Viveroneで予定され、さらにBracciano での大会や、Maccagnoでのイタリア・スイス選手権も開催されました。

主要大会のいくつかでは、非常に良好な参加状況が見られました。

Lericiで開催されたシーズン最初のナショナルレガッタには17チームがエントリーしました。病気やけがによる直前の欠場がさらに7チームあったにもかかわらず、この参加数となりました。

7月のLovere大会には、フランスからの4チームを含む18チームが参加しました。

これらの数字は、イタリア国内に安定した中核フリートが存在すること、そして近隣諸国のセーラーにとってイタリアの大会がますます魅力的になっていることを示しています。

Maccagnoでのイタリア・スイス選手権や、フランス、スイスの大会への継続的な参加によって、国境を越えた協力関係もさらに強まりました。

ユースと新しいセーラー

若いセーラーの獲得は、イタリアのFireballフリートの発展において、ますます重要な要素となっています。

2025年イタリア選手権の優勝チームは、結成間もないUnder-25チームでした。また、最近フリートに加わったほかのチームの中にも、420クラスや関連するユースクラスから転向してきたセーラーがいます。

新しいチームや若いクルーは、最新型の艇だけでなく、Classic艇でも歓迎されています。

これにより、最初から最新の装備を購入することなく、Fireballクラスに参加することができます。

協会は、誰でも参加しやすいフリートの雰囲気づくり、経験豊富なセーラーからのアドバイス、そして国内大会や国際大会にすぐ参加できる機会の提供を通じて、この移行を支援しています。

若いチームがすでに競争力を発揮していることは、地元開催の世界選手権によって生まれた熱意が、長期的なフリートの世代交代につながり始めていることを示しています。

トレーニングと技術向上

2025年、イタリアのFireballフリートでは、国内大会の期間中に短時間の技術ブリーフィングを行う取り組みを始めました。

イタリア選手権で初めて導入されたこのセッションは、その後Lovereでも継続され、参加者から好評を得ました。

ブリーフィングでは、開催地特有のコンディション、レース戦術、艇のチューニング、そしてそれまでのレースから得られた教訓などについて話し合います。

この取り組みは、経験豊富なセーラーと経験の浅いチームとの間で知識を共有する機会となり、フリート全体の競技レベル向上にも役立っています。

また、イタリアの大会では、陸上での協力も引き続き大切にされています。

セーラー同士が艇の修理、チューニング、レース準備などを手伝い合う文化が根付いています。

技術面での向上と、仲間同士の温かいサポートが両立していることは、イタリアのフリートの大きな強みの一つです。

国際大会への参加

イタリアのセーラーたちは、フランスやスイスで開催された大会をはじめ、国外のレガッタにも積極的に参加しました。一方、イタリア国内のレガッタにも、フランス、スイス、チェコからのチームが定期的に参加しています。

2025年に地元で開催された世界選手権によって、イタリアの国際的な活動は大きく広がりました。多くのイタリア人セーラーにとって、海外へ艇を輸送するための費用や物流面での負担をかけることなく、大規模な国際選手権に参加できる貴重な機会となりました。

2026年のレースプログラムでも、この国際的な視野は引き続き維持されています。Thunでのスイス選手権、Maccagnoでのイタリア・スイス選手権、Torbayでの世界選手権、そしてSaint-RaphaëlでのRiviera Cupなどが予定されています。

イタリアのフリートで活躍する女性たち

女性たちは、イタリアのFireballフリートにおいて、ヘルム、クルー、大会運営者、そして協会メンバーとして、引き続き重要な役割を果たしています。

Lericiで開催されたシーズン最初のナショナルレガッタは、国際女性デーと重なりました。この大会では、クラス内で「Firebelle」として親しまれている女性セーラーたちの活躍が特別に紹介されました。

シーズンを通じて、男女混合チームや女性同士のチームが目立った活躍を見せ、イタリア選手権でも女子部門での優勝がありました。

こうした女性たちの活躍は、Fireballが幅広いセーラーに開かれた、誰もが参加しやすい2人乗りディンギークラスであることを広く伝えるという協会の目標を後押ししています。

クラスの運営とコミュニケーション

イタリア協会は、ウェブサイト、ニュースレター、WhatsAppコミュニティ、そして大会レポートを通じて、活発な情報発信を続けています。

2025年にSanremoで開催された協会総会では、会長と会計担当者の続投が確認されました。一方、書記にはCarlo Zorziの後任としてGiovanni Dagninoが就任しました。

この役員交代により、委員会の継続性を維持しながら、若い現役セーラーがクラスの運営に加わることになりました。

国内大会のレポートでは、クラスの社交的で親しみやすい雰囲気の重要性が繰り返し強調されています。

仲間と食事を共にすること、気軽に技術的なアドバイスを交換すること、そしてレース以外の時間を一緒に楽しむことは、既存メンバーの継続的な参加を促し、新しいメンバーを温かく迎え入れるうえで、今も大切な役割を果たしています。

2026年のレースプログラム

2026年のカレンダーでも、国内大会と国際大会の両面で幅広い活動が継続される予定です。

ナショナルレガッタは、Santa Margherita、Quercianella、Arco、Porto Venereの4か所で開催される予定です。

地域間大会は、Desenzano、Lovere、Rapalloの3か所で計画されており、イタリア選手権は9月にPunta Alaで開催されます。

このほか、Maccagnoでのイタリア・スイス選手権、7月のTorbay世界選手権、Thunでのスイス選手権、そしてフランスでのRiviera Cupもプログラムに含まれています。

これらの大会は、Liguria、Tuscany、ガルダ湖、Lombardy、Piedmontなど、イタリアの主要なFireball活動地域に広く分布しています。

この地理的な広がりは、イタリア各地の主要な地域フリートが継続して大会に参加するうえで、大きな助けになると期待されています。

まとめ

イタリアのFireballクラスは、2025年を通じて大きな勢いを生み出しました。

Arcoで136艇が参加する世界選手権を開催したことは、運営面での大きな成果であり、国内フリートにとって明確な目標となりました。

イタリア選手権への高い参加率、ユースクラスからの新しいセーラーの増加、Under-25チームの成功、そしてイタリア国内大会への海外からの参加増加は、いずれも将来に向けた心強い兆候です。

今後の最大の課題は、地元開催の世界選手権によって生まれた特別な熱気を、持続的な会員数の増加と国内大会への定期的な参加につなげることです。

充実した2026年のレースカレンダー、継続的な国際交流、技術向上のための取り組み、そして若いセーラーの受け入れは、その目標を達成するための強固な基盤となっています。

以上が、イタリアレポートの最後の5セクションです。

ケニア

執筆：Alastair Bush, Tom Moreton

2026年ケニア国内選手権

私たちは先日、Kilifiで開催された第58回ケニア国内選手権を無事に終えたところです。

この大会は1969年に始まり、以来、一度も途切れることなく毎年開催されてきました。そして今でも、当時のオリジナルの銀製トロフィーを懸けて競い合っています。

今回参加した12艇のセーラーの中には、最初の大会が開催された当時に生まれていた人は一人もいません。それでも私たちは、この長い伝統を次の世代へと引き継いでいこうと努力しています。

25歳未満のセーラーが5人参加しており、私たちのフリートの将来は明るいものになりそうです。

また、海外からFireballを輸入してケニアのフリートを拡大しており、Torquayでの世界選手権の後には、さらに2艇が加わる予定です。



国内選手権は、インド洋から内陸に入り込んだ、**「The Bowl」**と呼ばれる広大な潮汐の影響を受ける水域で開催されます。

今回は全8レースを実施しました。風は主に南風14〜16ノットで、時折、強烈なガストが吹き抜けました。こうしたガストは、決まってジャイブマーク付近に潜んでいるものです！

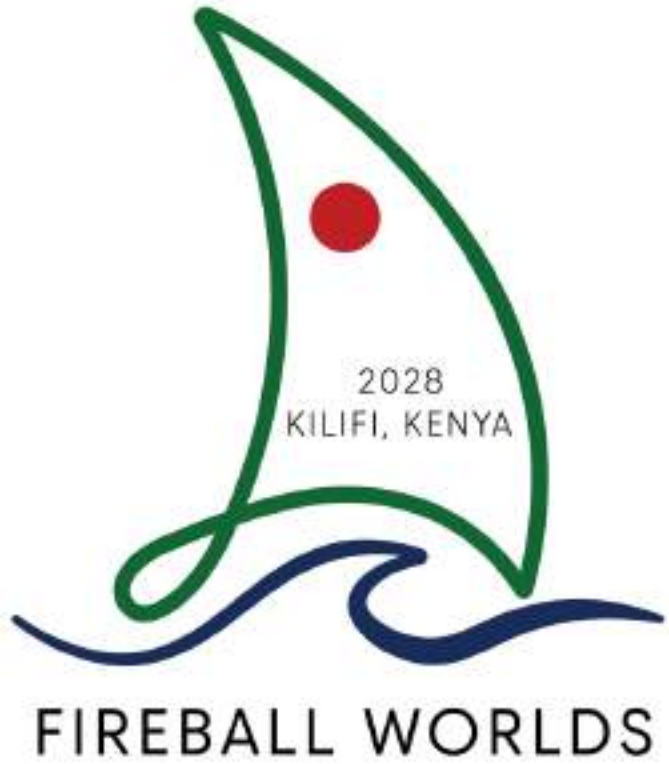
そのおかげで素晴らしいレースが繰り広げられましたが、同時に、私たちの**「Balls Up」トロフィー**への候補者も続出しました。

このトロフィーは、レース中に思わぬ失敗や珍プレーを披露してしまったセーラーに贈られる、ユーモアあふれる賞です。



1	Al Bush	Sandy Morton	Freshi	6
2	Taryn Bebbington	Joachim Bebbington	White Mischief	13
3	Chris Childs	Anika Bebbington	Sisi	16
4	Don White	Ben Playle	WhiteWash	22
5	Tom Morton	Eppie Morton	Umeme	28
6	Daniel Francis	Marcel Leahy	Sure Thing	33

2028年ケニア世界選手権



2028年2月に開催されるFireball世界選手権に向けた準備は、すでに順調に進んでいます。

大会の拠点となるのは、Mnarani Beach Clubです。ここは2003年の世界選手権が開催された場所でもあります。

大会期間中は素晴らしい雰囲気になることでしょう。毎晩のイベントやレースのない休養日には、さまざまなアクティビティを企画しています。

セーラーの家族の皆さんにも、日中楽しんでいただけることがたくさんあります。

レース海面は岸に近いため、プライベートガーデンからレースを観戦することもできます。

私たちは、この大会に東アフリカから15艇が参加することを目標としています。

そして、2028年1月30日に、この素晴らしいセーリング会場で世界中の皆さんをお迎えできることを楽しみにしています。

Karibu Kilifi！（Kilifiへようこそ！）

詳しい情報については、Fireball Kenya公式ウェブサイトをご覧ください。

また、ケニア側での艇の輸送や物流に関して、財政的な支援を提供できるようにしたいと考えています。

以上がケニアレポートの全文です。原文はここで終了し、次の29ページからはスロベニアのレポートが始まります。

スロベニア

スロベニアFireball協会のウェブサイトからの抜粋

活発な国内レース活動

スロベニアでは、年間を通じて7大会からなるSlovenian Cupレガッタシリーズが予定されています。

これに加えて、スロベニアではトレーニングキャンプも開催しています。また、近隣のヨーロッパ諸国で開催される主要大会の情報も積極的に発信しており、スロベニアのセーラーたちの中には、こうした海外大会に参加する人もいます。

以下の写真は、2024年にPortorožで開催されたヨーロッパ選手権でのスロベニアのFireballセーリングの様子を紹介しています。

また、地元スロベニアで開催されたFireballレガッタの写真からは、Portorožでのヨーロッパ選手権以降も、フリートが活発な活動を続けていることがうかがえます。



*2024年Portorož*ヨーロッパ選手権



*Portorož*で開催されたヨーロッパ選手権で、参加各国の国旗がはためく様子。



*Portorož*でのヨーロッパ選手権におけるダウンウインドのレース風景。



*2024*年*Portorož*ヨーロッパ選手権 — 混み合うスタートライン



*2025*年*Slovenian Cup*大会

イギリス

執筆：Adam Whitehouse

2025年 イギリスFireballフリート活動報告

大規模なフリート、素晴らしい開催地、そしてさらに高まる勢い

2024年がFireballクラスの変わらぬ素晴らしさをセーリング界に改めて示した年だったとすれば、2025年は、イギリスのフリートに勢いを緩めるつもりがまったくないことを証明した年でした。

シーズンを通じて、Fireballクラスはセーラーたちが期待するすべての魅力を見せてくれました。接戦の戦術的なレース、強風下での巧みなボートハンドリング、艇置き場での気さくな交流、家族チーム、世界トップクラスのチャンピオン、熱意あふれる新しい仲間たち。そして、Fireballが今なお最も競争が激しく、同時に最も楽しい2人乗りディンギークラスの一つであるという、紛れもない実感です。

この年を特徴づけたのは、二つの大きなテーマでした。

第一に、国内フリートが引き続き健全な状態を維持し、主要選手権には多くの艇が集まり、成績表の上位から下位まで厚みのある競争が繰り広げられたことです。

第二に、国際的な関心が2025年世界選手権の開催地であるLake Gardaへと向かう一方、2026年にイギリスで開催されるTorquay世界選手権にも、次第に注目が集まり始めたことです。

どのような尺度で見ても、2025年は勢いに満ちた一年でした。

Looeでの国内選手権：Fireballらしさにあふれた大会

イギリスのシーズンの中心となったのは、2025年5月24日から27日にかけてLooe Sailing Clubで開催された、P&BおよびZhik協賛のFireball国内選手権でした。

Looeは長年にわたり、Fireballセーラーたちに人気のある開催地です。素晴らしいレース海面、親しみやすいクラブ、コンパクトで交流しやすいディンギー置き場、そして出艇から帰着、陸上で過ごす夜までを印象深いものにする、Cornwallならではの独特の魅力を備えています。

大会には36艇が参加し、全8レースが行われ、最も悪い2レースの成績を除外する方式で順位が決定されました。

初日からフリートのレベルの高さは明らかでした。実績ある選手権常連チーム、家族チーム、男女混合チーム、そして新しいペアが、フリート全体で激しいレースを繰り広げました。

大会開始直後から、タイトル争いの中心となるのは二つの強豪チームだと明らかでした。Tom GillardとAndy “Shandy” Thompson、そしてDJ EdwardsとVyv Townendです。

DJとVyvは第1レースで勝利を挙げ、幸先のよいスタートを切りました。しかしTomとShandyもすぐに反撃し、これまで数多くの選手権で見せてきた、見事な安定感を発揮しました。

GillardとThompsonは、最初の6レースで2位、1位、1位、2位、1位、1位という成績を収め、その後のリタイアおよびDNS（不出走）の成績を除外して、ネット合計8点で圧倒的な優勝を果たしました。

DJ EdwardsとVyv Townendは13点で2位となり、David HallとPaul Constableが15点で3位に入りました。HallとConstableは第7・第8レースで連勝するなど、シリーズ終盤に力強い走りを見せました。

2025年イギリス国内選手権 上位**3**チーム

1. Tom Gillard & Andy Thompson
2. DJ Edwards & Vyv Townend
3. David Hall & Paul Constable



*2025*年*Looe*国内選手権は、接戦のレース、強い風、戦術的な駆け引き、そして多くの艇でにぎわう艇置き場など、*Fireball*の伝統的な選手権に期待されるすべての魅力を備えた大会となりました。

上位3チームに続く成績からも、フリートの層の厚さがうかがえました。

Peter GrayとRich Pepperdineが4位、Georgia BoothとOliver Davenportが素晴らしい走りで5位、GrahamとWilliam Cookが6位に入りました。

大会には、家族チーム、男女混合チーム、そしてクラシック艇での参加も見られました。Fireballが、トップレベルの競技性と、誰もが参加できる親しみやすさを両立しているクラスであることを、改めて示しました。

最終日は、この選手権にふさわしい活気あふれる締めくくりとなりました。

上位2チームの順位はすでに確定していたため、最後のレースに出艇したのは、強風をものともしない少数のクルーだけでした。

スタート時には風速がすでに20ノット近くまで上がっており、最後の強風レースは、短く、速く、そして忘れがたい大会の締めくくりとなりました。

最終レースはDave HallとPaul Constableが優勝し、Peter GrayとRich Pepperdineが2位、Paul CullenとSimon Forbesが3位に入りました。

*2025*年*Looe*国内選手権は、接戦のレース、強い風、戦術的な駆け引き、そして多くの艇でにぎわう艇置き場など、*Fireball*の伝統的な選手権に期待されるすべての魅力を備えた大会となりました。

Chewでの内水面選手権：風の振れ、水草、そして勝負強さ

Looeでの大会からわずか数週間後、フリートは内陸へと移動し、2025年6月14日にChew Valley Lake Sailing Clubで開催されたFireball内水面国内選手権に参加しました。

17艇がエントリーしたこの大会は、Cornwallの海で行われたレースとはまったく異なる試練となりました。

波や沿岸特有の戦術に代わって、Chewでは雨のシャワー、変化する風、急激な風向の振れ、比較的平坦な水面、そして暖かい春の気候によって大量に発生した水草が、セーラーたちを悩ませました。

土曜日は特に難しいコンディションとなりました。丘の上を通過する雨雲や雷雨によって風速と風向が変化し、レース運営チームは対応に追われました。

予定されていた4レースのうち3レースが実施され、選手たちは風の振れだけでなく、湖面の広い範囲に広がる水草を避けながらレースを進めなければなりませんでした。

第1レースではPaul CullenとSimon Forbesが勝利し、いつもの上位チームが簡単に勝ち進める大会にはならないことを示しました。

しかし、大会が進むにつれて、Tom GillardとAndy Thompsonは再び難しいコンディションを勝利につなげる方法を見いだしました。

土曜日の第2・第3レースで優勝し、日曜日にもさらに勝利を重ね、最終レースを待たずに選手権優勝を確定させました。

最終成績は、GillardとThompsonが9点で優勝、DJ EdwardsとVyv Townendが16点で2位、Paul CullenとSimon Forbesが18点で3位でした。

David HallとPaul Constableが4位、Kevin HopeとRichard Baileyが5位に入りました。

2025年内水面選手権 上位**3**チーム

1. Tom Gillard & Andy Thompson

2. DJ Edwards & Vyv Townend
3. Paul Cullen & Simon Forbes

この内水面選手権は、Fireballの大きな強みの一つを改めて示しました。それは、さまざまなコンディションに対応できる総合力の高いセーラーが報われるクラスであるということです。

外洋の広い海面をダウンウインドで豪快に走る艇でありながら、内水面では繊細な操作感覚、風を読む能力、そして戦術的な忍耐力が求められます。

Chewでは、そのすべてが試されました。さらに、意図しないタック、風上側への沈、そして水草にまつわるさまざまな騒動まで加わりました。



Fireball Inland Championship at Chew © Chris Meredith

*Tom Gillard*と*Andy Thompson*は、*Chew Valley Lake*で開催された*2025*年*Fireball*内水面選手権でも優勝し、国内大会での圧倒的な強さを維持しました。

Lake Garda世界選手権：壮大な国際舞台

この年の国際大会の最大のハイライトは、2025年8月22日から30日にかけて、Lake GardaのCircolo Vela Arcoで開催されたFireball世界選手権でした。

大会には驚くべきことに136艇が参加しました。Fireball Internationalによれば、これはイギリス国外で開催されたFireball大会として最大のフリートでした。

世界各地からクルーが集まり、近年のFireballクラスの歴史の中でも、最も壮観な選手権の一つとなりました。

Lake Gardaは、世界選手権にふさわしいあらゆるコンディションを提供してくれました。

大会前半には、Garda特有の南風「Ora」が吹き、最大25ノットに達する強風となったと報告されています。

一方、後半は不安定な天候が通常の午後の風のパターンに影響し、風はやや穏やかになり、時には軽風となる場面もありました。

優勝したのは、スイスの男女混合チーム、Yves MermodとMaja Siegenthalerでした。

全9レースのシリーズを終え、3点差で世界タイトルを獲得しました。

この勝利は歴史的にも重要な意味を持ちました。Fireball Internationalによれば、過去30年間でイギリス以外のペアがFireball世界選手権を制したのは、わずか4回目だったのです。

イギリスのフリートにも、祝うべき成果が数多くありました。

DJ EdwardsとVyv Townendは、3レースでの勝利を含む素晴らしいシリーズを戦い、総合2位となりました。

また、世界選手権2連覇中だったTom GillardとAndy Thompsonは、総合3位に入りました。

2025年Fireball世界選手権 上位3チーム

1. Yves Mermod & Maja Siegenthaler（スイス）
2. DJ Edwards & Vyv Townend（イギリス）
3. Tom Gillard & Andy Thompson（イギリス）

さらに、イギリス勢はフリートの各順位でも素晴らしい成績を残しました。

David WadeとIain Blakeは1レースで優勝し、総合5位となりました。

Peter GrayとRichard Pepperdineも1レースで優勝し、総合6位に入りました。

Georgia BoothとOliver Davenportは総合8位となり、Georgiaは女性ヘルム第1位として表彰されました。

Dave HallとPaul Constableは総合12位に入り、2人の年齢の合計が125歳を超える部門でも優勝しました。

この大会は、クラスの将来を担う若いセーラーたちの活躍も際立たせました。

DanielとHenry Thompsonは総合19位に入り、Under-25世界選手権で優勝しました。

彼らの活躍は、若いセーラーたちがFireballを、本格的で刺激的、そして挑戦する価値のあるレーシングディンギーとして引き続き評価していることを示す、心強い兆候となりました。



*Lake Garda*で開催された*2025*年世界選手権には*136*艇が集まり、イギリス国外で開催された*Fireball*選手権として、過去最大規模かつ最も壮観な大会の一つとなりました。

イギリスのフリートの層の厚さ

2025年を特徴づけた大きな要素の一つは、イギリスのフリート全体にわたる選手層の厚さでした。

トップレベルでは、これまでと同じ顔ぶれが国際舞台でも最高水準の成績を残し続けました。

GillardとThompson、EdwardsとTownend、HallとConstable、GrayとPepperdine、WadeとBlake、BoothとDavenport、そしてCook親子は、いずれもシーズンを通じて素晴らしい活躍を見せました。

しかし、クラスの健全さは表彰台の成績だけで測れるものではありません。

Looeでの国内選手権では、上位20チーム全体に高い競技レベルが見られました。

その中には、GrahamとWilliam Cook、MartynとDaniel Lewis、SteveとTom Goacher、OliverとBen Rayner、AnthonyとJames Willcocks、DanielとHenry Thompson、そしてImogenとDave Wadeといった家族チームも含まれていました。

Fireballは、男女混合チーム、家族チーム、そして世代を超えたチームが共に活躍できるクラスとして、その強みを示し続けています。

国内選手権ではGeorgia BoothとOliver Davenportが総合5位に入り、世界選手権では総合8位となり、Georgiaは女性ヘルム第1位として表彰されました。

Fireballは、世界トップクラスのセーラー、家族チーム、新しいペア、男女混合チーム、そして古い艇までもが同じスタートラインに並び、それぞれに意義のある競争を楽しめる、数少ない高性能ディンギークラスの一つであり続けています。

技術が報われるクラス

2025年のレース結果は、Fireballという艇そのものについても重要なことを物語っています。

Fireballでは、事前の準備、チューニング、ボートハンドリング、そして戦術的な判断力が、今なお確実に結果へとつながります。

Looeでは、沿岸海域に関する知識、波の中でのスピード、そして強風への自信が重要な役割を果たしました。

Chewでは、風の振れ、ガスト、水草によって、判断力が勝敗を左右しました。

Gardaでは、世界最高レベルのセーラーたちが、大規模なフリート、長いスタートライン、Oraの風、崖による風への影響、そして変化する天候のパターンを攻略しなければなりませんでした。

こうした多様性こそが、Fireballの変わらぬ魅力の一つです。

Fireballは、一つのセーリングスタイルだけが有利になる艇ではありません。

体力的な努力は必要ですが、単なる力任せでは勝てません。

技術的な正確さが求められる一方で、大胆さやセンスを発揮する余地も残されています。

レース海面を読み、明確にコミュニケーションを取り、コンディションに応じて走らせ方を切り替え、平水面での風の振れから全力で走るリーチングまで、あらゆる状況で艇を走らせ続けることのできるセーラーが報われるのです。

2025年もまた、この挑戦の魅力には抗いがたいものがありました。

ボランティア、クラブ、そしてレースを支える人々

年間活動報告を締めくくるうえで、シーズンを実現してくれたクラブ、レース運営チーム、ボランティア、クラス委員会、カメラマン、レポート執筆者、計測員、スポンサー、そして陸上サポートチームへの感謝を忘れることはできません。

Looe Sailing Clubは、記憶に残る素晴らしい国内選手権を開催してくれました。

大会レポートでは、温かく迎えてくれた陸上スタッフ、効率的なレース委員会、そして艇置き場やバーを中心とした親しみやすい雰囲気が高く評価されました。

Chew Valley Lake Sailing Clubも、難しく変化の激しいコンディションの中で、成功裏に内水面選手権を開催しました。

レース運営チームは、変化する風、嵐、そして水草の広がるエリアに対応するため、懸命に努力しました。

Fireballフリートは、昔からクラスを大切に思い、自分の時間を惜しまず提供してくれるボランティアに支えられてきました。

2025年は、素晴らしいレースが自然に実現するわけではないことを、改めて思い出させてくれました。

大会の運営、広報、写真撮影、成績集計、レポート作成、計測、出艇と揚艇、そして大会を祝う活動まで、多くの人々の努力によって成り立っています。

その仕事の多くは、一般の参加者が目にする以上のものなのです。

2026年Torquay世界選手権に向けて

2025年のシーズンが進むにつれ、関心は自然とRoyal Torbay Yacht Clubで開催される2026年Fireball世界選手権へと向かい始めました。

Fireball Internationalの大会予定によれば、2026年世界選手権は7月にイギリスのRoyal Torbay Yacht Clubで開催されることになっています。

イギリスのフリートにとって、世界選手権を自国で開催することは、単なるもう一つの選手権以上の意味を持っています。

それは、Fireballクラス、イギリスという国、Tor Bayの素晴らしいセーリング海面、そしてイギリスFireballコミュニティの強さを世界に示す機会です。

2025年を通じて見られた大きな熱意の背景には、自国開催の世界選手権が間近に迫っているという期待感が、間違いなくあったことでしょう。

Torquayは、イギリスのフリートに明確な目標を与えてくれます。

トレーニング、艇の準備、広報活動、スポンサー獲得、社交イベントの企画、そして新しいセーラーの勧誘など、さまざまな活動の中心となります。

また、海外のセーラーたちにとっても、イギリスに目を向け、活発で競争力があり、誰もが歓迎されるクラスの姿を見る機会となります。

2025年が勢いを築く年だったとすれば、2026年はその勢いを世界に披露する年です。



Fireballs racing at Royal Torbay YC © Tania Hutchings / www.50northphotography.co.uk

今、すべての視線は*Torquay*に向けられています。*2026*年、イギリスのフリートが世界中のセーラーたちを迎えます。

総括：**2025**年が重要な年だった理由

2025年が重要だったのは、Fireballが最も得意とすることを、存分に示した一年だったからです。

国内選手権では接戦が繰り広げられ、国際大会では素晴らしい成績が生まれました。

男女混合チーム、家族チーム、若いセーラー、経験豊富なチャンピオン、そして新しいペアが活躍しました。

また、イギリス国内選手権の36艇、Lake Garda世界選手権の136艇という参加数が示すように、Fireballが今なお大規模なフリートを集める力を持っていることも証明されました。

そして、数字では測りにくいものの、それと同じくらい重要なことも再確認されました。

それは、Fireballには今も独特の精神が息づいているということです。

競争は激しくても、閉鎖的ではありません。

真剣でありながら、堅苦しくありません。

技術的な奥深さを持ちながら、ユーモアを忘れません。

高い技量が求められる一方で、誰もが参加できるクラスでもあります。

成績表の上位に名を連ねたセーラーたちは、大いに称賛されるべきです。

Tom GillardとAndy Thompsonは、イギリス国内選手権シーズンを圧倒しました。

DJ EdwardsとVyv Townendは国内大会で彼らに激しく迫り、世界タイトルにもあと一歩のところまで近づきました。

David HallとPaul Constable、Peter GrayとRich Pepperdine、Georgia BoothとOliver Davenport、David WadeとIain Blake、そして多くのチームが、シーズンに厚みと彩りを加えました。

しかし、フリート全体にも同じように称賛が贈られるべきです。

遠征に出かけ、強風の中で出艇し、駐車場でセールを乾かし、レースの合間に艇を修理し、レポートを書き、写真を撮り、予備部品を貸し、新しい仲間を歓迎し、社交イベントを盛り上げてくれたセーラーたちも、この物語に欠かせない存在です。

2月のディンギーショーで披露された新しいデザインも、期待どおりの効果を生みました。

Windermarkのチームには注文が入り始め、わずか1年間で15艇の新艇がクラスに加わったことは、非常に大きな成果です。

2025年は、イギリスのFireballフリートにとって、単に良い一年だったというだけではありません。

それは、なぜこのクラスが長年にわたって愛され、存続し続けているのかを、改めて思い出させてくれる一年でした。

速い艇。接戦のレース。素晴らしい仲間たち。

そして2026年にはTorquayが待っています。

最高の瞬間は、まだこれから訪れるのかもしれません。

アメリカ合衆国

執筆：Peter Wirth

アメリカ国内でのFireballクラスの活動は非常に限られており、現在の会員数は約9人です。

2025年には、5艇から参加の確約を得ていたため、アメリカ国内選手権の開催を予定していました。しかし、その後2艇が参加を取りやめたため、残念ながらレガッタを中止することにしました。

新しい改良型Fireballを購入した新会員もおり、国内選手権でその艇を見ることを楽しみにしていましたが、本人には別の予定があり、参加できませんでした。

TimとRusselは世界選手権に出場する予定です。彼らがカリフォルニアの地元セーリングクラブでFireballクラスへの関心を高めてくれることを期待しています。また、世界選手権からもう1艇を持ち帰ろうとしているようです。

Clayは、世界選手権の会場からFireballをコンテナいっぱいに積んでアメリカへ輸入しようとしています。どこまで実現できるか、今後の進展を見守りたいと思います。

私は毎年春、会員名簿に掲載されている人たちに、クラスへの加入を呼びかける案内を何度も送っています。しかし、新しい艇のオーナーが数人増えても、彼らは地元でしかセーリングをせず、Fireball Internationalに加入するメリットを感じていないようです。

Dave Whiteは、Dave Hallと協力して、新しいデザインに対応した木造Fireballの建造マニュアルの改訂に取り組んでいます。

Dave Whiteは過去30年間にわたり、新しく艇を建造する人々のプロジェクトを支援してきました。この2人のDaveが協力しているのは、素晴らしいことです。

新しい木造艇も何艇か完成していますが、そのオーナーたちは、完成した艇でセーリングすることよりも、艇を建造すること自体に興味があるようです。

毎年Columbia Riverで開催してきたカナダとアメリカの合同交流イベントは、ホワイトハウスの国境政策の影響で休止しています。再びそこで一緒にセーリングできるようになるまでには、数年かかるかもしれません。

Oregon州Portlandのフリートは、現在まったく活動していません。

2026年北米選手権は、先月カナダ西部で開催され、17艇が参加しました。

当時の燃料費の高騰により、Pat Crumpは参加を断念せざるを得ませんでした。長距離の車移動やホテル代などを含めると、費用が高くなりすぎたためです。

それでも、カナダから17艇がレースに参加したことは、明るいニュースでした。

アメリカのFireballフリートを再建することは、大きな課題です。

新しいオーナー候補にFireballの魅力を知ってもらうには、実際に艇が水上を走り、セーリングしている姿を見てもらう必要があります。

しかし、現在はそれが実現できていません。

Clayが普及を進めようとしていた古い艇のオーナーたちも、現代的なデザインの艇に乗り換えたり、古い艇を維持するために必要な手間をかけたりすることには、あまり関心がないようです。

アメリカのFireballフリートを成長させるためのアイデアや提案があれば、ぜひお寄せください。

アメリカ合衆国南西部地域：復活の物語

私たちは楽しんでいます！

執筆：Clay Poulson

再出発

それほど遠くない昔、どういうわけか、アメリカ西部のArizona州Phoenixに、現代的なWinder製Fireballが1艇やって来ました。

残念ながら、そのオーナーが周囲を見渡しても、近くにFireballはほとんどありませんでした。

アメリカ各地には古い艇がぽつぽつと残っていましたが、この地域の水域では、20年以上にわたってFireballフリートによるレースが行われていませんでした。

幸いなことに、Los Angelesに住むフランス人とボリビア人のカップルが、ガレージのスペースを犠牲にして、古い6000番台のSailnetics製Fireballを手に入れました。

この2艇は、つながりを保つために、ArizonaやCaliforniaで時々一緒にセーリングをしていました。

そこへ、Coloradoに住む男性が古いRondar製Fireballを手に入れ、セーリングをするためにArizonaまで運んできました。

そして彼は、すっかりFireballの魅力に取りつかれてしまったのです。

活動を続ける

翌年、この小さなFireballグループは、Arizona、California、Coloradoの3州で、それぞれ1大会ずつ開催してみようと決めました。

私たちは、この3大会からなるレガッタシリーズを少し宣伝しました。

すると、参加者は予想をはるかに上回ったのです！

思いがけず古い艇が姿を現し、どの大会にも大勢のセーラーが集まりました。

Fireballに乗ってみたいと思った人は誰でも、この3回の週末を通じて、実際にセーリングを体験することができました。

そして、一度乗ってみれば、Fireballの魅力は艇そのものが伝えてくれるのです。

次の成長段階へ

そこで2026年も、私たちは再び3大会のレガッタシリーズを計画しました。

ところが、熱意はさらに大きく広がっていきました。

新たに艇を購入した2人のオーナーが、それぞれの所属クラブで大会を開催したいと申し出てくれたのです。

開催地は、California州Los AngelesとArizona州Lake Havasuです。

その結果、2026年にはアメリカ南西部で、合計5つのFireball大会を開催できることになりました。

さらに、このグループは、来年初めにイギリスからFireballをコンテナで輸入し、フリートを本格的に拡大しようとしています。

私たちにとって新しい艇であれば、必ずしも新艇である必要はありません。

必要なのは、状態の良い艇です。

私たちはそれを手に入れ、そして実際にセーリングするつもりです。

驚くべきことに、アメリカ南西部でFireballフリートが復活したのです！

本当に信じられないことです。

わずか3年間で、大会数はゼロから3大会、そして5大会へと増えました。

以下の写真は、各大会でレースを楽しみ、Fireballのシャツを誇らしげに着ている仲間たちの様子です。




USA
14031
15120




International Fireball
United States